



小児総合医療センター

〒183-8561

東京都府中市武蔵台二丁目8番29号

電話 042-300-5111 (代表)

病院の概要

臨床、教育、研究面で国内外に発信することを目標にする病床規模日本一（561床）の小児専門病院です。総合診療科の他に、救命救急科や心療内科、内科系専門診療各科、新生児科、集中治療科、児童・思春期精神科（家族支援部門を含む）、および外科系専門診療各科が揃っており、幅広い患者さんを診ている病院です。その中で総合診療科は、救命救急科と協力して病院の窓口機能を担当しています。このような特徴から、一般小児科から、内科系専門診療科まで、幅広い研修が出来ます。また、シニアレジデントの教育は病院の根幹のテーマです。屋根瓦方式の“教えることで自ら学ぶ”ことを中心とした日々の教育とともに、専門診療科スタッフが総合診療科に加わる交流など、病院全体で教育に取り組んでいます。研究面では、臨床研究を支える部門が研究支援（計画、統計解析）をしているため、レジデントの学年研究のみならず、さまざまな研究に対するサポートを得られる体制が整っています。

■ 診療科目

総合診療科 心療内科 循環器科 内分泌・代謝科 血液・腫瘍科 腎臓・リウマチ膠原病科 神経内科
呼吸器科 結核科 感染症科 免疫科 消化器科 アレルギー科 臨床遺伝科 外科 心臓血管外科
泌尿器科 整形外科 形成外科 脳神経外科 眼科 耳鼻いんこう科 皮膚科 小児歯科 矯正歯科
臓器移植科 病理診断科 検査科 診療放射線科 麻酔科 児童・思春期精神科 集中治療科 救命救急科
新生児科 リハビリテーション科 心理・福祉科 在宅診療科 臨床試験科 遺伝子研究科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・小児科（広尾／大塚／多摩北／荏原／豊島／立川相互病院／松戸市立総合医療センター／山梨大学連携病院）
- ・精神科（多摩総合／松沢／多摩あおば病院）

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・外科（墨東／多摩総合）
- ・小児科（大塚／墨東）
- ・精神科（墨東／多摩総合／松沢／荏原／豊島）
- ・整形外科（多摩総合）
- ・麻酔科（広尾／大塚／駒込／墨東／多摩総合／東部／荏原／豊島）
- ・耳鼻咽喉科（多摩総合）
- ・泌尿器科（駒込）
- ・病理科（多摩総合）
- ・放射線科（駒込／多摩総合）
- ・救急科（墨東／多摩総合）
- ・総合診療（駒込／多摩総合）



（初期研修医向け“わくわくSTEPセミナー”風景（コロナ前））

臨床研修委員会委員長からのひとこと



総合診療科部長
幡谷 浩史

当院は小児専門病院であると共に、ERに多くの一次救急症例が受診します。この2点が当院の研修の特徴を形作っています。

総合診療科は研修の中核であり、小児科の基礎を学びます。3万人(2021年度)のERの受診症例の中にはcommon diseaseから稀な疾患まで多彩です。川崎病を例に挙げれば、年100症例を越える中には不全型や治療不応症例などが含まれます。症例数が多いと言うことは、同じ疾患でも違うバリエーションに出会うことでもあり、疾患をより深く学ぶことができます。

2年目を中心に回る専門診療科での研修は、各学会の第一線で活躍している先生方と研修に來ている若手に囲まれて、専門分野について基礎から最先端までの幅広い知識に触れることができます。また、学んだことを総合診療科に戻ってきたときに下の学年に教える(屋根瓦方式)ことで、さらに知識を自分のものにすることができます。

昨年、都庁における医師アカデミー研究発表会がスライド提出になりましたが、当院では全年が地方会に準じた形式で院内発表会を行いました。抄録作成から発表まで、年1回は指導するようにしています。発表会には院長・副院長も参加し、優秀演題を表彰します。

学年全員で前向きの臨床試験をおこなうのも当院の研修の特徴の一つです。clinical questionを持ち寄り、臨床試験科のサポートを受けながら、3年間で作り上げていきます。

教育に熱心なメンバーが集まる教育環境ワーキンググループが中核となり、教育の質を高めるための検討を続けています。3年間、楽なことばかりではありませんが、子どもたちと家族の笑顔のために、一緒に学びませんか？

シニアレジデントからのひとこと①



小児科コース
令和3年度修了
佐野 海斗

当院での小児科研修は、臨床・研究・教育の三本柱を網羅し常にバランスよく学べるようプログラムが組み込まれています。臨床面ではこども病院として中核を担うため様々な難しい病態を持つ患者はもちろんのこと、一般小児科でも経験する肺炎、喘息、尿路感染症など様々なcommon diseaseを経験することが出来ます。特に当院における救命救急科での研修は非常に充実したものであり軽症から重症まで幅広く学ぶことが出来ます。こども病院だから一般小児科研修はできないのではと思っている方には必見の研修病院となっていることは間違いありません。研究面においては、3年間をかけて入職同期者で協働して一つの臨床研修を立案しそれを実現していきます。臨床試験科をはじめとして全面的にバックアップしてくれる体制をとっています。3年間かけて一つの研究を行い論文化することまで体制が整っている研修病院は非常に珍しいのではないのでしょうか。最後に教育です。これは言うまでもなくレジデントが主体的になり後輩たちの指導を行います。屋根瓦式を用いたチーム形式での研修は自らが主体的に他者を理解できるように説明・指導をすることに実現します。指導をする難しさを感じると共に、教育の面白さ・奥深さを経験することが出来ます。また当院には多彩な臨床経験がある診療スタッフの指導の下、研修を行います。より充実した研修内容になることは間違いありません。小児科医を志したきっかけを胸に当院での研修を行ってみてはいかがでしょうか。

シニアレジデントからのひとこと②



精神科コース
3年次
吉田 賢

当院での児童・思春期精神科研修の最大のメリットは、やはり日本最大のこの施設規模ではないのでしょうか。精神科だけで7病棟を擁し、院内学級や幼児から思春期までのデイケア、入院児と走り回れる広場や体育館まで揃っている超巨大施設です。症例についても、総合病院で内科と連携可能であることや国内では珍しい自閉症病棟もあるため、他施設では診療困難な身体的に重症な摂食障害の児や強度行動障害を伴う自閉症児なども受け入れ可能です。まさにできない治療、みられない症例はない、といった環境ですが、最後の砦として地域一帯から患者が集まるため、忙しい研修にはなります。もちろん症例検討会やクルーズなどは充実していますが、どちらかというと「ゆっくりと手とり足とり」ではなく、「走りながら学ぶ」というスタイルかもしれません。また、私自身が個人的に感じた当院の魅力は、在籍医師の多様なバックグラウンドです。初期研修、小児科、精神科、内科出身、また医師以前に教師をしていたなど様々で、当然その思考回路もみな面白いように違います。臨床で正解のない場面に多々遭遇するこの領域では、多種多様な考えに触れて、時には葛藤しつつ、自分自身が変わっていく、という作業が本質的な研修ではないかと思います。ぜひ一度見学にお越しください。お待ちしております。